

# 文化施設におけるPFIの進捗状況の例（地域の文化施設における活用事例）

## 大阪中之島美術館の事例（大阪市所管）

大阪市中之島エリアに「大阪中之島美術館」を新設

- 運営段階からPFIコンセッション方式を日本の美術館として初めて導入
- 入館料収入等で全ての維持管理・運営費用を賄うことが困難であることから、料金収入の他、サービス対価を支払う  
**混合型コンセッションを採用**
- 事業期間 17年間（希望に応じ最大15年間のオプション延長が可能）

### ■沿革

- |       |     |  |
|-------|-----|--|
| 平成28年 | 7月  | 内閣府「平成28年度 高度専門家による課題検討支援」の支援対象に決定                 |
| 平成29年 | 3月  | 民間事業者への意向調査等を踏まえ、美術館運営へのコンセッション方式導入の効果や、留意点等を取りまとめ |
|       | 5月  | 文科省「文教施設におけるコンセッション事業に関する先導的開発事業」委託契約締結            |
| 平成30年 | 8月  | 導入可能性調査開始  |
|       | 3月  | 導入可能性調査結果の取りまとめ。VFMについて確認。                         |
|       | 6月  | 文科省「文教施設におけるコンセッション事業に関する先導的開発事業」委託契約締結            |
|       | 10月 | 実施方針（案）公表  |
| 平成31年 | 1月  | 関心表明事業者へのヒアリング                                     |
| 令和元年  | 6月  | 実施方針公表、募集要項等の公表                                    |
|       | 2年  | 2月 優先交渉権者の公表                                       |
|       | 4月  | 公共施設等運営権実施契約の締結                                    |
|       | 7月  | 公共施設等運営権を設定  |
| 4年    | 2月  | 開館   |

### ○敷地

所在地：大阪市北区中之島4丁目  
敷地面積：12,870㎡  
用途地域：商業地域

### ○建築

階数：地上5階建て  
延べ面積：20,012㎡



## ① 国立文化財機構 文化財活用センターの取組

### ○ 技術を活かした文化財の新たな展示

関東大震災で一部焼失した国宝「花下遊楽図屏風」を最新技術で復元（キャノン株式会社との共同プロジェクト）。高精細複製品を展示し、**プロジェクションマッピングと音響による幻想的な空間を創出**。



◀ 展示風景



明治時代に撮影された  
写真を元に復元複製▶

## ② 国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンターの取組

### ○ 企業等と連携した共同事業

NTTドコモとの共同実証事業として、XR※コンテンツ展示イベント「XRで楽しむ未来の展示」を実施。展示室の本物の剥製を見ながら、表示される動物の情報や、頭骨などの3Dモデルを見て操作することにより、**これまでにない視点から観察するなど、新しい博物館展示を体感できる**。

※VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)といった先端技術の総称



コンテンツイメージ  
(イメージ提供：NTTドコモ)